

こくみん共済 coop 慶應義塾大学寄附講座

「公共私による新しい福祉価値の創造—新しい福祉価値をどのように生み出すか—」

第10回 2025年12月18日

「AI と共にある未来社会—尊厳・社会・環境への倫理的視座」

同志社大学 学長 小原 克博氏

## ■人類史における道具や技術の発展

同志社大学の小原です。私は現在、同大学の学長を務めていて、専門はキリスト教を中心とする宗教研究ですが、長年 ICT と教育の研究や実装に取り組んできた経験があるので、今日はその経験も含めてお話ししたいと思います。では、まずそもそも道具とは何なのか。人類にとって最も原初的な道具は、火です。火を発明することで人間は消化しきれなかった食べ物を栄養にすることができ、結果として脳の発達に役立ち、人間の知性を高めました。しかし、同時に火は集落を焼き尽くすこともできます。良き目的にも悪しき目的にも使えるという道具の両義性は、最も原初的な段階からあったのです。今日のテーマの AI も、両義的であることはこれまでの道具と同じですが、では何が違うのか。AI は人間の精神性に非常に強い影響を及ぼすという点で、他の道具とは一線を画する危険性を持っているのです。かつて福沢諭吉は『学問のすゝめ』の中で「学問をするには分限を知ること肝要なり。自由と我儘との界は、他人の妨を為すと為さざるとの間にあり」とし、実学を活かすには道徳的な節度が不可欠であると強調したことを忘れてはなりません。次に、今日のテーマである倫理について。英語の ethics (倫理) はギリシア語の ethos (慣習) に由来するもので、かつての規範は共同体のしきたりに従っていればよかったです。しかし、多様な価値を前提とする現代において、倫理を画一的な行動規範で語ることはできません。むしろ私は、選択可能なものの中から当事者にとって最善のものを選択する方法を示すことが、倫理の最低限の要件と考えています。選びうる選択肢を全て示した上で、その人に納得いくものを選んでもらう。選んでもらうところに、倫理が果たすべき役割があります。多様な可能性を示す前に一つの結論に誘導するパターンリズムであってはなりません。そしてもう一つのポイントは、自然と人間と人工物の関係です。西洋ではこの三者の間に厳然とした境界線がありますが、日本ではその境界線が非常に曖昧で流動的です。この文化的な違いも私たちは意識する必要があります。AI をどう使うかについて、私たちが考えていく上でポイントとなるのは、人間の尊厳を損なうことなく、民主主義を弱体化することなく、環境を悪化することなく、AI を用いることは可能なかどうか。このことを私たちは考えていく必要があると思います。

## ■AI による「尊厳」への影響とそれに対する対応

ここではまず、尊厳の定義から始めましょう。西洋史における尊厳には大きく二つの潮流があります。一つはギリシア、ローマに由来する人文主義の伝統で、自由や尊厳という言葉が実際にありました。もう一つはキリスト教的な考え方で、尊厳について語るとき「神はご自分にかたどって人を創造された」という「創世記」の一節が引用され、人間の固有の価値が強調されます。尊厳については長い議論があるのですが、科学や技術の発展がそれを流動化させ、境界線を曖昧にしています。尊厳の境界は、例えば、動物／人間／人工物 (AI やロボット) の間にあります。西洋では長く

動物の尊厳など考えられずにいましたが、現在は日本以上に動物の尊厳が重視され、法が整備されています。人工物の尊厳についてもこれから議論が進むでしょうし、SFの世界では古くからありました。また、胎児の尊厳や脳死患者の尊厳をどこまで認めるべきなのか。今生きている私たちは、未来世代への責任をどう考えるか、その尊厳をどう守るか。AI+ビッグデータはドーパミン発生装置となっていて、スマホ、ゲーム、チャットボットの中毒が深刻化しています。また、私たちの情報は最適化されていますが、それゆえに視野狭窄になる可能性があります。最適化への欲求はより良い人、より良い社会を求めて拡大してきましたが、そこには負の側面もあるため、歴史的な検証は欠かせません。

### ■AIによる「社会」への影響とそれに対する対応

私たちは「フェイク」の大海にいて「真理」の島にたどり着くことはできるのでしょうか。今は真実かどうかの問題とされないポスト・トゥルースの時代です。そういった時代だからこそ真実とは何かを探究していかなければいけません。こうした時代認識の上で注目すべきは陰謀論です。陰謀論の背景にあるのは、複雑で予測の難しい世の中をシンプルに把握したいという欲求です。危機や不安の背後には悪の組織があるといった陰謀論が、政治の世界にまで影響しており、分断の背景には SNS があります。私たちは高度な科学技術を手にしましたが、人や社会はかつての迷信を克服して合理的になったかというところではないということ覚えておく必要があります。もう一つ、私たちの関心そのものが経済活動の交換財とされ、関心が誘導されるアテンション・エコノミーが資本主義の中で重要な役割を果たしています。ネットでは日々レコメンドを受けて、私たちがビッグデータの一部になってしまっていますが、真に自分が求めるものを見出すには時間をかけて逡巡するプロセスも必要です。また、AI時代にデモクラシーをどうすれば維持できるのか。選挙の不正介入や偽情報の流布は世界中で行われており、対立を加速させる仕組みをどう超えるのかが大きな課題となっています。

### ■AIによる「環境」への影響とそれに対する対応

生成 AI とそれを支えるデータセンターは膨大な電力や水資源を必要とします。カーボンニュートラルとの両立はできるのでしょうか。環境問題に対しては、さまざまな倫理的対応がなされてきました。環境倫理という新しい倫理学も生まれ、人間中心主義が批判されて、動物福祉やビーガン運動が発展しました。一方で AI 時代においては、知性偏重の新たな人間中心主義が強化されていく可能性があります。AI は人間の現実を映す鏡です。AI をビジネスの側面だけでみるのではなく、人間のあり方を問い直すために向き合う必要があります。AI の諸モデルは現状では西洋的視点と英語に偏っていますが、今後は言語の多様性や文化の多様性を保持していくことが重要で、国の違いを超えた共感できる人間関係は技術だけでは作ることはできません。文化的多様性や日本の特性を併せて考えていかなければならないと思います。

<文責：こくみん共済 coop >